

(42) 高山城郭の歴史

①城郭の変遷

高山城の破却は元禄8年(1695)6月に終了したが、8月伊奈代官は城地・侍屋敷の跡地の処分について勘定所に伺い、結果高山の町人715軒へ割地し渡すこととなり(註25)、また11月には城や侍屋敷に残っていた道具や樹木の払い下げが行なわれ(註26)、のち元禄10年(1697)6月侍屋敷の割地に対して割地の方法を定めた証文が出された。

元禄15年(1702)8月2代代官伊奈半左衛門は飛騨の山林取締のため山見役を置いたが、大野郡・吉城郡・益田郡に105人のほか城山にも1人を割当てている。

安永年間(1772~1781)には金森氏移封後無住となり荒廃していた大隆寺が再建された(註27)。文化5年(1808)5月16代田口郡代の元締貝塚素牛の内命により、三之丸跡の堀の清掃を行い、この年城山に桜が植えられた。また翌年には山内に茶屋等ができて次第に町民の憩いの場となった(註28)。

文政3年(1820)三之丸の堀端に「金の神」の祠が再建された。(註29)

天保7年(1836)には19代大井郡代の元締菊田秋宣らによって、素牛の追悼のため「白雲山桜花碑」が建てられた。(註30)天保13年(1842)には凶年対策として三之丸跡に「圀初郷蔵」が建てられた。

(以下明治以後は編年で記す。)

明治6年 (国内で初めて公園制度ができた)太政官布告第16号を以て国有公園となる。

明治8年7月15日 「古城跡公園」設置を願出、10月16日許可。戸長ら実地調査を行う。

明治11年12月16日 吉城郡坂下村の「保寿寺」移転の発願が出され、二之丸跡に移転す。

明治12年4月21日 三之丸跡に「神道中教院」が落成、その地は忠孝苑と命名された。

明治25年11月12日 「高山公園」を飛騨三郡の所属と定め、大野郡長の管理となす。

明治29年7月20日 二之丸東方斜面が崩れ、島川原付近の民家多数が被害を受けた。(註31)

明治38年6月1日 「高山公園」を高山町の管理とし、「城山公園」と改称した。

明治39年9月27日 中佐平に「広瀬中佐」の銅像が建ち、その除幕式が行なわれた。

明治42年6月16日 三之丸跡に「飛騨招魂社」が建つ。

明治43年4月 二之丸跡に押上中将寄付の戦利品の^{おしあげ}大砲設置。(のち昭和16年供出)

大正2年10月31日 付近の大火のため、三之丸跡西北地内にあった民家が焼失。

大正3年 三之丸跡忠孝苑の大改修が行なわれ、招魂社の社殿が修復される。

大正3年8月30日 三之丸跡に「大野郡公開堂」が竣工し、翌年4月23日落成式が行なわれる。

大正13年6月2日 「二之丸グランド」の竣工式が行なわれ、同所で小中学校連合運動会を開催。

昭和5年 二之丸グランド東面の石積工事。三之丸跡の堀の東、北面に壁提築く。

昭和9年3月6日 岐阜県指令により高山城跡が史跡となり、4月30日その標石が建つ。

昭和14年4月1日 招魂社を「飛騨護国神社」と改称、11月本殿竣工し遷座祭を行なう。

昭和16年4月16日 二之丸跡に「飛騨武徳殿」建つ。(昭和22年11月山王小へ移転。)

昭和24年11月 二之丸跡の「保寿寺」吉城郡舟津町へ移転する。(現在の円城寺)

昭和27年4月 白雲水から山王公園までの道路完成。

昭和27年春 城山一周ドライブウェイ着手。(昭和31年完成。)

昭和29年2月18日 本丸屋形跡の「暴風雨信号灯保管庫」焼失。

昭和29年7月 三之丸跡に「城山保育園」竣工。

昭和30年9月 二之丸跡から本丸跡に警報用サイレンを移し、その鉄塔が建つ。

昭和31年2月24日 高山城跡「岐阜県指定史跡」となる。

昭和31年4月4日 都市公園法適用指定。

昭和 31 年 4 月 5 日 「風致地区」に指定 (47.5 ㈬)

昭和 31 年 6 月 14 日 「高山城跡及びその周辺の野鳥生息地」指定

昭和 31 年 12 月 1 日 三之丸跡飛騨護国神社東側に「久和司神社」が建つ。

昭和 32 年 9 月 27 日 桜門のあった曲輪跡に福来博士記念館開館式。

昭和 35 年 1 月 19 日 二之丸跡に白川郷の「照蓮寺」移築完成。(前年 4 月 1 日より基礎工事始)

昭和 35 年 9 月 23 日 二之丸跡照蓮寺前に遊園地、休憩所、野外音楽堂等が完成。

昭和 36 年 11 月 15 日 三之丸跡護国神社東方に「飛騨匠神社」が建つ。

昭和 38 年 9 月 12 日 二之丸跡の野外音楽堂を「鳥類舎」に改造す。

昭和 38 年 12 月 桜門跡前に「動物舎」が完成。クマ、キツネ、タヌキ、イノシシ、アナグマを飼う。

昭和 39 年 7 月 中佐平裏地に「鹿の家」完成。

昭和 41 年 6 月 13 日 二之丸グランド中央に「ペンギン池」完成。

昭和 42 年 3 月 30 日 鳥獣保護区、特別保護区指定 (53 ㈬)

昭和 44 年 京都の植藤造園により、二之丸照蓮寺前の石庭を整備。

昭和 45 年 9 月 1 日 都市計画法に基づく「都市計画公園」に指定。

昭和 45 年 9 月 旧大手道途中に枳形門風の「模疑石垣」できる。

昭和 45 年 11 月 二之丸グランドを「芝生の公園」に改修。

昭和 46 年 7 月 13 日 照蓮寺の「防火設備」完成。中段曲輪跡にその「貯水槽」できる。

昭和 46 年 7 月 15 日 「城山を守る会」結成。九月に『城山公園の報告書』発行。

昭和 48 年 3 月 1 日 中佐平上の「冬頭屋」を撤去。

昭和 49 年 4 月 「城山ドライブウエー」自動車乗入禁止。

昭和 49 年 9 月 城山の動物園、閉鎖。

昭和 55 年 4 月 20 日 飛騨護国神社の「社務所」と「遺品館」竣工。

昭和 57 年 10 月 12 日 ペンギン池跡地に「金森長近公の銅像」完成。

昭和 58 年 3 月 4 日 三之丸跡に「城山保育園」及び「児童センター」完成。

(註 25) 『飛騨国中案内』

「城跡は格別、其外侍屋敷破却の跡地は高山本町七百拾五軒の者共へ割地に被仰付、起立家一軒へ何様屋敷地五間に二十間余、大概百坪の余程割附に被仰付、相応の見取御年貢差上げ田畑に致す」

(註 26) 『高山庄屋御用留』(所収：『大野郡史中巻』)

「今度高山御城破却道具、並侍屋敷毀道具、其外樹木御払に被仰付候間、望之者は明日より来る廿六日迄之内、御会所之参、入札注文写之入札司致旨、触下村々へ可被相触候」

(註 27) 『紙魚のやどり』

「元来無壇地金森家国替之後は空地同様にて(中略)安永の頃曹洞宗の大徳宗龍和尚京都金龍院より譲求め、古堂を毀屋舗を穿ちて田となし、はるか上なる山を引ならしあらたに本堂禅堂庫裡等造立云々」

(註 28) 『紙魚のやどり』

「城山西南大洞という所、水茶屋躰仮屋寺島屋左七建之、東南大隆寺続には田楽茶屋出来、宝龍院には揚弓場建、所々遊戯之地と相成候」

(註 29) 『紙魚のやどり』

「辰年城山北の端掘の上に去年より祠を建、號金の神と今年五月四日・五日始て祭を執行し群参あり。是は先年二之丸谷間之岩の上にちいさき祠を置(中略)其祠を今再建」

(註 30) 『白雲山桜花碑の文面』(所収：『高山市史上巻』)

「今はむかし貝塚翁の此国につかへまつられけるとき此処の人々とはかりて、この尾の上に手つからも、人しても桜木多く植えられけるか、今もいとめでたく榮えたりける、かの翁のみやひたるころさしを續て、こたび又さらにあまたの苗植そへ、そのかみ口すさまれける翁の句を石にえりつけて、残してんとてかくはものしつ。

植てなほ花に命のをしきかな 故 素牛翁 (以下十句略)

(註 31) 『高山町役場日記』(所収：『高山市史下巻』)

「字古城跡東面高二十五間、上中十五間、下中三十間全陥落時午後八時三十分頃人家二十戸潰落死傷あり」

②金森氏6代に関する文献

ア『(金森家)系譜』(所収：『金森系譜』)

「本家衰微之時近江国金森村江父采女ト一所ニ罷越申候而改氏金森五郎八ト申候」

イ『斐太後風土記』

「金森公高山城をきつかれし頃、鎮護を祈り、ここに勧請して祀らせしとぞ」

ウ『飛騨編年史要』

「文禄三年正月某日。秀吉諸大名へ課して山城国伏見に築城し、金森素玄に知行高三万三千石に対する夫役を命ず。」

エ『金森家譜』(所収：『金森系譜』)

「天正三年乙亥於越前有戦功長近感之為養子干時十八歳」

オ『高山市史下巻』一素玄寺の項一

「長近公慶長十三年八月十二日逝去せられ、其追善の為に同十三年十月起工翌慶長十四年四月建立相成り、格翁門越和尚を住持せしめたり、(中略)創立以来国主金森家菩提所として金森家歴代の位碑を安置し供養し来たり。」

カ『慶長留記』(所収：名古屋城と天守建築))

「御城経営懸り諸大名衆諸取町場間数之坪数：同(町場)百八拾九坪四分 金森出雲守」

キ『大野郡史上巻』

「四月 重頼、高山城内に東照権現を勧請す。」

ク『荏野冊子』(所収：飛騨春秋第一年第七号)「金森重頼江名子川切替について」

「宮川に濺其旧蹟(もとのかわら)を田畑に開拓の時砂中より赤銅の古霊像を掘出ぬ、諸人評せしに古しへ此山腹大杉下に八幡宮鎮座在しと古老の説也とて候へ言土せり、候大悦て其大杉下の旧跡に新に社殿壇礎を修造華表を建て高山城中及畷邸の鎮座とし云々」

ケ『明治十二年寺院明細帳』(所収：『高山市史』)

「寛永九年、高山城外此地ニ梵刹ヲ新築シ師ニ請フテ此地ニ住セシム新安国寺ト云フ、其後改メテ宗猷寺ト称ス、是源重頼、法号真龍院殿ト云フ、依テ真龍山ト号シ金森左京重勝ノ法号宗猷居士ト云、依テ、宗猷寺ト号スルナリ。」

コ『睡人雑話』(所収：『大野郡史中巻』)

「出雲守重頼殿息女之内、文鏡院殿、清正院殿、松寿院殿(中略)三女居家を向屋舗と云ふ。」

サ『斐太後風土記』

「飛騨国領主金森二代出雲守可重は、江馬十六代輝盛滅亡後、其女を取へて、妾として男子出生せり。幼名を金森小四郎と號、後に金森左京重勝と名乗せ、外戚江馬家の録に因て、元和年中高原郷三千石の領主とせり。」

シ『金森左京系譜』(所収：『金森系譜』)

「重直 頼母 左京家二代之主、本家出雲守重頼六男妾腹也」

ス『同右』(同右)

「近供 仙千代 左京 左京家三代主、本家長門守頼直二男」

セ『飛州志』一袈裟山千光密寺(再興棟札)より抜一

「萬治三庚子年九月吉祥日、奉行森興三左衛門尉直次、大工頭中井甚次郎」

ソ『往還寺山門棟札』(所収：『大野郡史中巻』)

「奉行森右衛門九郎、曾我源之丞、奉行後藤十兵衛、矢野七郎右衛門、大工藤原朝臣池守猪之助正勝」

③石垣修築に関する文献

ア『武家諸法度』(寛永二年六月改正、第三条)

「新規之城郭構營堅禁止、居城之隍壘石壁以下敗壞之時、達奉行所可受其旨也、櫓堀門等之分者、如先規可修補事」

イ『日本地震資料第二巻』

「寛文二年五月一日〔山城・大和・河内・和泉・摂津・丹波・若狭・近江・美濃・伊賀〕駿河・三河・信濃・伊勢・武蔵 十二月まで余震」

ウ『同上』（所収諸文献より抄出）

（この時被害を被った城は、大阪・二条・摂津尼ヶ崎・同高槻・和泉岸和田・丹波亀山・若狭小浜・近江膳所・同彦根・伊賀上野・伊勢亀山・同津・同桑名・越前福井・尾張犬山等）

エ『金森家譜』（所収：金森系譜）

「同（延宝）八年庚申達 台聴再築高山城石垣」

④金沢藩の在藩に関する文献

ア『紫野大徳寺』（文中抜）

「大徳寺塔中で、文禄元年（一五九二）長近によって創建され、自らの法號を以て名付けられた。明治二十二年（一八八五）同寺塔中龍源院へ合併され、同所に金森家歴代の墓所も移された。」

イ『小池由之助氏所蔵文書』（所収：『大野郡史中巻』）

「今度當領所替に付、給人城下引拂之儀、今日より三十日限たるへき事。」（この達しにより金森家士は翌二日高山出発、古川に十日滞在後同月二十八日上山へ着いている。）

ウ『高山在番記』（金沢市立図書館蔵）

「卯克在番ノ面々高山城大手桜門ニ人数備立上使浅野伊左衛門殿御代官伊奈半十郎殿次金森兵庫（金森出雲守殿家老）森四郎左衛門津田孫太夫斎藤新左衛門（各同家老）等登城ス此跡ニ随ヒ織部宗左衛門縫殿清左衛門源七郎為兵衛藤左衛門（各羽織裁付）七人次ニ葛巻凶書横山牛之助中川長吉湯原長十郎安宅覚左衛門羽田帯刀森田小左衛門（各羽織裁付）七人帯刀シナカラ竹之間ト名目有之所ニ至ル出雲守殿家来七人（各布上下）列居互ニ黙礼シテ入替ル城引渡シ相済シ以後伊左衛門殿江熨斗蛸湯原長十郎（布上下）役之事畢テ伊左衛門殿退去竹之間ニテ各トシテ参着苦勞之由及会釈云々上使退去后桜門ニ有之鉄砲弓長柄侍中入手城中」

エ『飛州高山在番御普請方御入用帳』（抜書）（金沢市立図書館蔵）

「檜丸太長六尺ヨリ三間半迄来口三寸ヨリ五寸迄 拾三本 御本丸石垣突木 四本 二ノ御丸石垣突木 栗丸太長七尺ヨリ老丈四尺迄末口三寸ヨリ五寸迄 拾壱本 三ノ御丸石垣突木 檜長八尺ヨリ弐間迄幅五寸ヨリ八寸迄厚三寸ヨリ四寸迄 御本丸石垣押木すり木 二之御丸石垣押木すり木

オ『飛州高山廢城一卷』（金沢市立図書館蔵）

「四百八十人 大工 一万四千八百人 屋形毀人足 但屋形等三之丸内御貸家共、坪数四千九百二十八坪 一坪に三人懸り 七千五百人 石垣毀人足 但石垣総坪数千八百六十七坪 一坪に四人懸り」

カ『睡人夜話』（所収：『大野郡史中巻』）

「初元禄五年申年御料所に相成の時、金森兵庫居家並渡辺外記、宇津宮瀧次郎、国友居家合て為官庁或は会所とも称す、其後元禄八亥年城地破却に付今之地へ引移に成る。則出雲守重頼殿息女之内、文鏡院殿、清正院殿、松寿院殿の三女以居宅本陣とす、四月廿二日引移し有之」

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。